

東欧の哀愁と熱情—ヨーヨー・マから賞賛される稀代のソリストが初来日

マレック・シュパキエヴィッチ

チェロ・リサイタル

マレック・シュパキエヴィッチ[チェロ]
Marek Szpakiewicz, Cello

ジアイ・シー[ピアノ]
Jiayi Shi, Piano

ドヴォルザーク(シュパキエヴィッチ編):スラヴ舞曲 ホ短調 Op.72-2
A.Dvorak(Arr. by M.Szpakiewicz):Slavonic Dance in E minor Op.72-2

ショパン:チェロ・ソナタ ト短調 Op.65
F.Chopin:Sonata for Cello and Piano in G minor Op.65

ショスタコーヴィチ:チェロ・ソナタ ニ短調 Op.40
D.Shostakovich:Sonata for Cello and Piano in D minor Op.40

ピアソラ:ル・グラン・タンゴ
A.Piazzolla:Le Grand Tango

Marek Szpakiewicz

Cello Recital

2015

3/27 (金) 19:00開演[18:30開場]

王子ホール

東京メトロ丸の内線・銀座線 銀座駅A12出口より徒歩1分
〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL:03-3564-0200

全席指定: ¥4,500(消費税込)

王子ホールチケットセンター 03-3567-9990

チケットぴあ[Pコード:247-125] 0570-02-9999 <http://pia.jp/t/>

後援: 駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター

エル・システムジャパン



、Classic for Japan



制作・お問合せ: 株式会社1002[イチマルマルニ] 03-3264-0244 <http://www.1002.co.jp/>

※都合により、出演者・プログラム・曲順などが変更される場合がございます。※未就学児の同伴・ご入場はご遠慮ください。



マレック・シュパキエヴィッチ (チェロ)

Marek Szpakiewicz, Cello

ポーランド生まれロサンゼルス在住のチェロ奏者マレック・シュパキエヴィッチは、ヨーヨー・マ氏から「エネルギー、モチベーション、真摯さ、そして寛容な心を持っていることが明かなアーティスト」と評され、ピューリッツァー賞を受賞した作曲家ジョン・コリアーノ氏から「シュパキエヴィッチ氏が演奏した私の作品『バッハのアリアによるファンシー (Fancy on a Bach Air)』は、素晴らしく華麗である」と、高い評価を得ている。

ポーランドのルブリン市にて6歳からチェロを始める。渡米し、ジョーンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院でステイヴン・ケイツ氏に師事。その後、南カリフォルニア大学ソロートン音楽学校でエレノア・ショーンフェルド女史に学び、音楽修士号と音楽芸術博士号を取得。

数々の国際コンクールで優勝、入賞し、ヨーロッパ各国とアメリカでソリストとして活躍。「天賦の才能ある演奏家」、「壮大なビジョンと計り知れない説得力を持つ」、「際限のない技術性」などと賞賛された。ポーランドとアメリカのラジオ局では生演奏が放送される他、KUSC局では1時間の特別番組が制作。イギリスの弦楽器雑誌「Strad」では、「プロッホ：ヘブライ狂詩曲「シェロモ」」のライブレコーディングに対して、「スコアを著しく正確に実現化したもの」と好評を受けた。これまでアン・アキコ・マイヤース、スミ・ジョー、岩崎洗などの名高い音楽家と共演。グラミー賞を多数受賞したジャズ歌手のボビー・マクファーリンの歌と『ヴァルディ：2つのチェロのための協奏曲』で共演し、「彼の演奏技術は超絶そのもの、彼の素晴らしいパフォーマンスは、世界の人々に心の豊さを味わう機会を与えた」と絶賛された。

オーケストラ編曲の分野でも活躍し、映画音楽作曲家ヤン・A・P カチュマレク氏の作品に携わる。共同で手掛けた映画音楽『ネバーランド』は2005年第77回アカデミー作曲賞を受賞。同氏の映画音楽では、リチャード・ギア主演『HACHI - 約束の犬』(09年夏公開)や松井久子監督の『レオニー』(10年秋公開)などで、印象的なソロを聴かせた。

08年アメリカ政府から「特殊で卓越能力をもつアーティスト」として永住権を授与。11年には東日本大震災チャリティーコンサートを企画し、在ロサンゼルス日本領事館の後援を受けて開催。ロサンゼルス郡参事からその献身的活動に対して表彰を受けた。

現在、カリフォルニアのアズサ・パシフィック大学音楽学部で教鞭をとり、室内楽のディレクターを務める。

使用楽器は1870年製ヴィオーム。

Marek Szpakiewicz

Cello Recital

ジアイ・シー (ピアノ) Jiayi Shi, Piano

上海出身。上海音楽院の予備学校を経て渡米。イーストマン音楽学校で音楽修士号及びピアノ・ソロの演奏家資格を取得、さらにニューヨークのマンハッタン音楽学校の音楽芸術博士号を取得。現在、室内楽奏者、器楽伴奏者として活躍している。

モーストリー・モーツァルト音楽祭にて、ヴァイオリニストの五嶋みどり氏と共演しニューヨーク・デビューを果たす。以来、サンフランシスコのデイヴィス・シンフォニーホール、ロンドンのセント・ルークス・ホールなど世界的にも著名なホールで室内楽演奏会に出演。また、ロサンゼルス・フィルハーモニック コンサートマスターのマーティン・チャリフォ、ソリストの五嶋龍及びバイエルン放送交響楽団の首席奏者コルベニアン・アルテンベルガーの各氏と定期的に共演している。

最近では、ワシントンDCのケネディ・センターでのリサイタル、KBS(韓国)テレビ番組「Classical Odyssey」にて五嶋みどり氏と共演、ミュンヘン、レーゲンスブルク(ドイツ)、名古屋でのリサイタル・ツアー、トロント(カナダ)でのラジオ出演、また、五嶋みどり氏との現代音楽の録音プロジェクトや、ヴァイオリニスト スーリー・シュエとの中国民族音楽のコラボレーションなど、多岐にわたった活動に才能を発揮し、情熱を注いでいる。

これまで南カリフォルニアのバイオラ大学及びシエラ大学の教師を務めるほか、アメリカの都市部から離れた地域にクラシック音楽を広めるための財団「Partners in Performances」の関連マスタークラスを開いたり、また韓国や中国でも授業を行うなど後進の指導にも精力的にあたっている。



本公演の収益金の一部をエル・システムジャパンへ寄付します



福島から始まった

エル・システムジャパンの取り組み

家庭の事情にかかわらず、希望する子どもも楽器の演奏や歌うことを、グループで学んでいけるということ。それは芸術を通して自己を表現し、仲間と一緒に創造の喜びを知ること。そして、一人一人の子どもが、誇りと自信を持っていくことで親が変わり、その周りの人々も変わって、社会変革に繋がっていくのです。こうしたエル・システムの教育理念の実現こそが、東日本大震災によって厳しい状況にさらされ、特に、原発事故による影響を心身ともに受けている福島の子どもの尊厳を回復し、夢と希望を与えることができるのではないかという思いから、エル・システムジャパンは、2012年3月に設立されました。

「音を奏でハーモニーを生み出しながら美を創造しようとするすべての人が、『本質的なハーモニーとは、人間同士のハーモニーだ』ということを理解し始める。」徐々に、ベネズエラのアブレウ博士の言葉の意味を子どもたちは体験をもって理解し始めています。そして、多くの方々に支えられながら音楽を通じ困難を乗り越える力と勇気を養い、少しずつ、しかし着実に前進しています。

本公演の一部で、被災地で生まれ育った木材で製作され、ヨーヨー・マ氏によって日本で初めて演奏された TSUNAMI チェロを演奏します。



TSUNAMIヴァイオリン —千の音色でつなぐ絆—プロジェクトとは

東日本大震災で被災した奇跡の一本松や被災地で暮らす人々の歴史が刻まれた木を、弦楽器製作者の中澤宗幸氏がヴァイオリンとして蘇らせました。このプロジェクトは、世界中の千人のヴァイオリニストたちがリレーのようにその楽器を受け継ぎながら、千の音色を奏で復興への思いをつなげて行くことを目的としています。

2014年6月現在、ヴァイオリン4挺、ヴィオラ2挺、チェロ1挺が製作され、世界中でその記憶を語り響かせてつづけています。